

2021年度スタッフ一覧

所長	岡田 幸宏
准教授	宮田 尚子
	澤 宏司
助教	趙 智英
	矢内 真理子
アカデミック・インストラクター	大谷 紗也加
	寺島 紀衣
専門調査員	深尾 友理恵
事務長	瀬川 真理
係長	鎌田 大輝
係員	鈴木 梨加
	山口 夏奈
	櫻 舞

CLF

同志社大学 学習支援・教育開発センター レポート REPORT Center for Learning support and Faculty development report

Vol.

33

2022.3

CONTENTS

ページ	
02	開催報告 新任教員研修会 TA研修会 2020年度教育方法・ 教材開発費制度利用者(B区分)による成果報告会 FD研修 FD懇話会
04	2021年度部会活動報告
05	大学入学準備講座
06	2021年度学生調査報告
08	ラーニング・commons活動状況 ーコロナ禍2年目の活動報告ー
11	学部・研究科・センター等FD活動報告 (文化情報学部、心理学部、司法研究科) 教育方法・教材開発費制度について 教育開発調査活動費制度について
12	2021年度スタッフ一覧 Column 大学教育の今

COLUMN 大学教育の今

コロナ禍の3年目に思う

新型コロナウイルス感染症との闘いも2年を経過した。この小稿を執筆している段階では、感染者数の上昇の波もその高さをしだいに重ねて6回を数えている。ただ、未知のウィルスをひたすらに怖れるという初期段階と比べれば、この1年のわが国は、正しく怖れ適切に備えるという方向への動きだったように感じられる。学習支援・教育開発センターとしても、昨年度は、非常時だからこそともかく試し、そして数多くの経験を得ることができた。今年度はそれを、ウィズ・コロナあるいはアフター・コロナの時代にどう展開するのかを志向する1年であったといえる。このレポートの各記事から、当センターのそんな姿勢を読み取っていただければと思う。さて、日本でも昨年来ワクチン接種が進んでコロナ禍は収束へ向かうのではと期待された。しかし、変異株の登場により感染者数が激増し、新たにワクチン接種が開始されたように、未だに状況の見通しが立ちにくい。そうであるならば、正しく怖れ適切に備えるほかはないように考える。ただこの「備える」について、新型コロナに対する備えだけではなく、様々な点で、ウィズ・コロナ、アフター・コロナへの積極的な議論が必要な時期になっているのではないかと。コロナ禍は我々に間違いなく不便やコストを強いてきたが、一定の利便性の享受も少なくなかった。例えば、ICTの充実による移動コストの低減がその最たるものとしてあげられようか。このいったん経験した利便さをどこまで残せるのか、あるいは残すべきかは、大学だけではなく、社会全体が様々な観点から取り組むべき難問なのかも知れない。

コロナ禍3年目、どのように動けばよいのかに思う1年ではなく、どのように動かしていくのかを見据え思考する1年にしたいものである。

学習支援・教育開発センター所長 岡田 幸宏

学習支援・教育開発センター設置の趣旨

本センターは、本学における全学的な学習支援施策の企画及び実施、全学的な教育施策の企画及び開発、教育活動の継続的な改善の推進及び支援により、大学教育の充実と発展に寄与することを目的として設置されています。

CLF REPORT
Center for Learning support and Faculty
development report

「シーエルエフ レポート Vol.33」
同志社大学 学習支援・教育開発センター レポート

発行日：2022年3月31日 [Tel] 075-251-3277 [Fax] 075-251-3025
発行者：同志社大学 学習支援・教育開発センター [E-mail] ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp
京都市上京区今出川通烏丸東入 明徳館1F https://clf.doshisha.ac.jp/

開催報告

新任教員研修会

本学教員として教育・研究活動に従事していただくうえで、ご理解いただきたい事項の認識を深めていただくことを目的として、毎年度新任教員研修会を実施しています。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため集合研修を中止し、研修会動画の視聴をお願いすることとなりましたが、2021年度は感染防止対策を行ったうえで、無事対面で実施することができました(後日オンデマンド配信も実施)。

当日は、2021年4月と2020年度途中に採用された新任教員約50名の参加があり、終了後のアンケート調査では本研修が参考になったとの声を多数いただきました。

日時 4月2日(金)13:00~16:30 **開催場所** 今出川校地良心館地下1番教室

内容 各所管の機構長、所長、室長から各内容について説明いただきました。

- ① ガバナンス、意思決定の仕組み ② 教育活動 ③ グローバル化の取組み ④ 学生支援体制 ⑤ 研究活動 ⑥ 入学試験業務 ⑦ 教育・研究倫理

受講者の声(終了後アンケート結果より一部抜粋)

大学の基本精神と方針を確認できて、参考になった。

同志社大学の教育理念について認識を深めることができた。

同志社大学における国際主義の意味と成り立ちについて見識を深められた。

研究者として遵守すべき倫理的規範を再確認できた。

TA研修会

ティーチング・アシスタント(TA)に任用される大学院生(予定者を含む)を対象として、TA制度の定義・目的、TAの業務内容、心得、キャンパス・ハラスメントの防止、TAの事務手続き等について説明する研修会を2011年度より実施しています。

2021年度は2020年度に引き続きオンデマンド配信にて実施しました。

研修会動画・資料を公開しています。 **TA研修会** <https://clf.doshisha.ac.jp/ta/ta.html>



コロナ禍のため、間隔をあけて大教室で実施しました



FD研修

2021年度は本学教職員を対象としたFD研修を以下のとおり実施しました。

新型コロナウイルス感染拡大に伴いICTを活用した授業が急速に広まる中、先生方の関心がより高いと思われるテーマを設定しました。

著作権に関する講習会

日時 2021年4月23日(金) 5講時(16:40~18:10)
講師 井関涼子先生(法学部教授)
実施方法 Microsoft Teamsライブイベントにてリアルタイム配信(後日、期間限定でオンデマンド配信)

知的財産法をご専門にされている井関涼子先生に、授業における著作物の利用に関する基本的な事項について、「SARTRASに補償金を支払うことで公衆送信が可能となる著作物の種類・範囲は?」「海外の映画や書物も対象となるのか?」等の疑問に触れながらお話いただきました。

当日は50人以上の参加があり、多数の事前質問やお問合せをいただくなど、テーマに対する先生方の関心の強さがうかがえました。



当日リアルタイム配信の様子

オンライン国際連携学習(COIL)に関する研修会

日時 2021年6月24日(木) 10:00~11:30
講師 池田佳子先生(関西大学国際部教授、グローバル教育イノベーション推進機構副機構長)
実施方法 Zoomによるリアルタイム配信(後日、期間限定でオンデマンド配信)
共催 国際連携推進機構

日本においてCOILの先駆的な取り組みを行っておられる関西大学の池田佳子先生をお招きし、COIL型の授業を実践するのに必要な基礎的な知識や注意点等をご説明いただきました。

COILとは、Collaborative Online International Learningの略で、ニューヨーク州立大学(SUNY)COILセンターによって開発された、オンラインコミュニケーションを用いて2か国以上の国の間で教育と学習の両方を実現する革新的な教育方法で、日本にいながら海外の大学生とチームを組み、協力し合って授業の課題を仕上げていくことが可能となります。

研修会では実際にZoomのブレイクアウトルーム機能を使ったCOIL型の授業を体験することもでき、大変有意義な機会となりました。

ひとこと

COIL自体はコロナ禍以前から実施されていますが、コロナ禍で海外渡航ができなくなったことにより世界的に注目され、取り組む大学が増えています。単なる海外留学の代替措置としてだけではなく、経済的な理由、家庭の理由、身体的な理由など、海外留学の障壁となる様々な理由のある学生にも海外の大学生と共修し、多文化への理解を深める機会を提供することが可能で、ダイバーシティキャンパスの推進に資することも期待されます。

ポストコロナの大学教育を考える ~現在の取り組みと未来の展望~

日時 2021年7月26日(月) 17:00~18:10
講師 小原克博先生(神学部教授)
開催方法 今出川校地良心館305番教室での集合研修およびZoomによるリアルタイム配信(後日、オンデマンド配信)
共催 ALL DOSHISHA 教育推進プログラム委員会

新型コロナウイルス感染拡大前からブレンディッド・ラーニングなど先進的な教授法を実践されている小原克博先生をお招きし、ALL DOSHISHA教育推進プログラムに採択されている「社会実践のためのブレンディッド・ラーニングの構築-『地の塩』プロジェクト」における取り組み例や、ICT技術を活用した教授法のご紹介とその効果などについてお話いただきました。

当日は、オンラインはもちろん教室にも多数の教職員の参加があり、有意義な研修会となりました。



論理的思考教育の意義と本学での実践

日時 2022年1月28日(金) 17:00~18:10
講師 下嶋篤先生(文化情報学部教授)
開催方法 今出川校地良心館305番教室での集合研修およびZoomによるリアルタイム配信(後日、オンデマンド配信)
共催 ALL DOSHISHA 教育推進プログラム委員会

下嶋篤先生をお招きし、ALL DOSHISHA教育推進プログラムに採択されている「ALL DOSHISHA 論理的思考教育プログラム」における取り組み事例をもとに、「なぜ今、論理的思考教育が必要なのか」をご説明いただくとともに、オンデマンド教材と対面授業を組み合わせた反転授業、ICT技術を活用したより効果的な教授法についてご紹介いただきました。

当日は、オンラインを中心に多数の教職員の参加があり、参加教員の教育実践と絡めた質問やコメントが時間いっぱい寄せられ、大いに盛り上がりました。



2020年度教育方法・教材開発費制度利用者(B区分)による成果報告会

報告者の先生方ご自身で、それぞれ動画を作成していただき、プロジェクトの背景、開発目的、具体的な活動内容、成果、今後の課題などについて詳細に報告していただきました。

報告者	取組内容
梶山 玉香 先生(法学部)	「障害者でない者と等しく」学ぶための教材・試験のあり方
伊藤 利明 先生(生命医科学部)	学生主体の基礎数学学習支援法の開発 -2019年度「基礎数学の入学前・リメディアル教育支援法の開発」(継続)-



FD 懇話会

日時 2021年10月28日(木) ※教務主任会議終了後 テーマ 学習成果の把握について 開催方法 Microsoft Teamsによるオンライン開催

各学部、研究科において、学習成果の把握・測定方法を考え、その方法が適切であるかについて継続的に検証してもらうために、中央教育審議会の答申や「教学マネジメント指針」、大学基準協会の「大学基準」等各種資料の内容を再確認しながら教務主任の先生方と懇談する機会をもうけました。

当センターからは、学習成果の測定方法は、学生調査も含めて複数の方法を組み合わせ、学位授与方針の項目ごとに何を指標とするかを検討する必要があることや、学習成果の把握・可視化は最終目標ではなく、それによって得られた情報をもとに、教育改善やカリキュラムの見直しを行うサイクルを持続できるよう、継続可能な方法の採用が重要であること等をお伝えしました。

本懇話会の内容を踏まえ、各学部・研究科にて検討を進めていただくことが望まれます。

2021年度部会活動報告

2021年度は以下の部会を設置しました。2021年度の部会も、2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、全ての部会をメール会議にて実施しました。

FD支援部会

設置の趣旨

教育内容、授業方法の改善を推進するとともに、教育効果に関わる全学的な企画の検討を行うことを目的として設置しています。

活動報告

今年度の本部会は、まず、「キャンパスライフに関するアンケート調査」を大きく見直しました。調査方法をWEB調査に一本化することに加え、調査実施時期を従来より前倒しし11月に実施、今後は2年次生も対象とすることにしました。また、調査項目についても、毎年度調査する定番項目と、年度ごとに変更可能な可変項目を設けることとしました。

さらに、次年度より、新たに新入生を対象とした「入学時調査」を実施することにしました。入学時調査の導入により、「入学時調査」、「キャンパスライフに関するアンケート調査」、「学びのふり返り」卒業時調査」と、入学時から卒業時まで一貫した調査により、学生の経年変化をより詳細に確認することが可能となります。

また、昨年度、コロナ禍における学生の学習状況や生活状況を調査するため「臨時学生調査」を2度（「キャンパスライフに関するアンケート調査」も含めると3度）実施しましたが、今年度も春学期に1度実施しました。

これらの学生調査について、「キャンパスライフに関するアンケート調査」および「入学時調査」の実施要領、「臨時学生調査」を含む各調査の調査項目についても本部会で検討を行いました。2020年度の「キャンパスライフに関するアンケート調査」について、ホームページにて公開する結果の内容についての検討も行いました。

昨年度に制定した「学習支援・教育開発センターが所管する学生を対象とする調査の回収データ管理・運用規則」に、調査結果の集計・分析における教務システム情報の取扱について追記する改正を行いました。また、次年度よりFD支援部会の運営方法を変更することに伴い、「学習支援・教育開発センターが所管する学生を対象とする調査の回収データ管理・運用規則」、「教育開発調査活動費制度に関する申合せ」、「教育方法・教材開発費制度に関する申合せ」の一部改正を行いました。

そのほか、次年度のシラバス作成に向けて、「シラバス記載方針」を「シラバス作成方針」に改め、シラバス入稿システムに「授業形態」の項目が新設されることに伴い、説明内容を一部変更しました。

「教育方法・教材開発費制度」について、昨年度は申請がありませんでしたが、今年度は3件の申請がありました。本部会での段階的な審議を経て、最終的に2件の申請が採択候補となりました。

次年度の「新任教員研修会」については、キリスト教文化センターによる講演を新たに設けることとし、研修会全体の時間配分も見直しました。

「学生による授業評価アンケート」については、次年度の実施に向けて調査項目の一部見直しました。

学習支援検討部会

設置の趣旨

本学における学習支援活動および学習支援環境（ラーニング・コモンズ等）の運営方法を検討することを目的として設置しています。

活動報告

今年度のラーニング・コモンズ(LC)は、コロナ禍でのイレギュラーな運営が続いているものの、期間を通して開室することができ、例年行っている学習相談やアカデミックスキルセミナーを、対面とオンラインを併用して行うことができました。また、春学期の利用状況を踏まえ、秋学期からグループ学習優先席を増設し、12月からは短縮していた良心館LC2階の開室時間を通常時に戻しました。

本部会では、LCの入室者数、各エリアの利用者数、学習相談件数、学習支援コンテンツへのアクセス状況、アカデミックスキルセミナー開催状況の報告を行うとともに、LC利用案内ツアーの実施、LCパンフレットのリニューアルや公式YouTubeチャンネルの開設、大学院在学中の外国人留学生を対象とした新たな取り組みである「日本語ライティングサポートWEEK」の開催、次年度のLA採用予定に関する報告等も行いました。

そのうえで、いまだ感染症の収束が見込めない状況であるものの、コロナ禍におけるLCのよりよい活用方法や、感染症収束後の新たな運用などについて意見交換を行いました。



大学入学準備講座

高校生を対象に、大学における必要な学力レベルを知ってもらうこと、正しい学部選択の機会を与えることを目的とし、「大学入学準備講座」を開講しています。本学教員がそれぞれの専門分野で扱う学問の内容から高校生が興味を持ちそうなテーマを選んで、大学で実際に行われる授業と同じ形式で高校生に講義を行っています。

2021年度は引き続きオンデマンド配信で開催

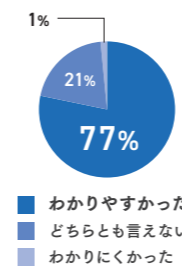
2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度に引き続きオンデマンド配信による開催となりました。オンラインで質問できる機会をもうけたり、教室等のキャンパス内風景を動画背景に使用したり、大学の授業を体感してもらえるように工夫しました。

2021年度は58校から、多くの高校生にご参加いただきました。受講後のアンケートでは、「進学する学部について考えるきっかけになった」、「大学の講義の雰囲気を感じることができた」といったコメントをいただきました。長引くコロナ禍により、キャンパスに来ていただくことはできませんでしたが、自宅や高校で受講できてよかった、好きな時間に繰り返し視聴できてよかったとのこと意見もいただきました。

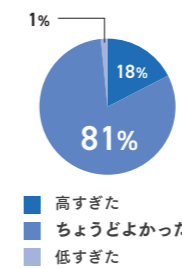


アンケート結果 ※1/7現在

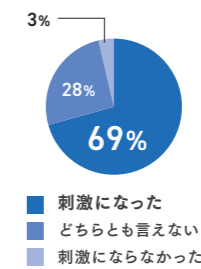
Q. 講師の話し方はどうか?



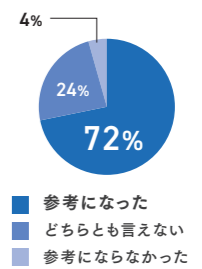
Q. 授業のレベルはどうか?



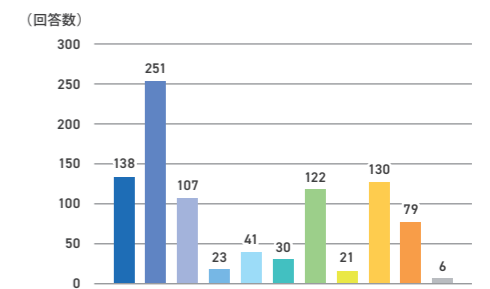
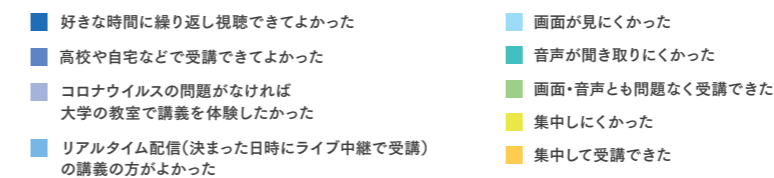
Q. 高校における勉強の刺激になったか?



Q. 学部を選択する際の参考になったか?



Q. オンデマンド配信の講義についてどのように感じましたか?(複数回答可)



受講者の声

自分の生活に関わりのある話だったので興味を持って聞くことができた。大学の授業がどのようなものなのか気になっていたのでとても参考になった。

学部が沢山あって実際どんな授業をやるのかなどわからないことが多かったのですが、こうしてオンラインで実際の授業を体験して、自分が大学生になった姿などはっきり想像でき学部選択の参考になりました。

今自分が学んでいることが大学での学びの確かな土台となることを再確認させられ、これまで以上に学習に対するモチベーションが上がりました!

資料が豊富で、わかりやすくワクワクする講義だった。

講義の雰囲気や、学部ではどのような事を学ぶのか知ることができ、とても良い機会になりました。同志社大学に入学したいという気持ちが強まりました。

2021年度 学生調査報告



2021年度も依然として新型コロナウイルスに大きく影響される状況が続いていることから、学生の学修状況や学生生活の様子を把握し、教育改善にいかすため、昨年度に引き続き臨時学生調査を行いました。調査対象は、新入生と、昨年度特に影響が大きかった2年次生に限定しました。調査結果は、授業運営の円滑化や全学的な教育改善へとつなげるため、各学部・研究科をはじめ学内関連部課と共有しました。

例年実施している「キャンパスライフに関するアンケート調査」について、2021年度は実施要領や調査項目を大きく



見直しました。学生がフィードバック情報を就職活動などに活用することを想定し、実施時期を11月からに早め、また、調査対象に2年次生も加えました(従来は学部1・3年次生が対象)。調査項目は、毎年度調査が必要な項目(定番項目)と、数年に1度の調査で傾向把握が可能な項目及び臨時的に調査する項目(可変項目)を設けることにしました。

学士課程において実施する卒業年度の学生調査も、昨年度から継続して支援します。

各調査の概要

臨時学生調査

- 実施方法** WEB調査 (Microsoft Forms)
- 調査対象** 学部2021・2020年度生
- 回答期間** 2021年5月28日(金)4:00~6月4日(金)4:00

本調査で学生から寄せられた意見・要望をもとに、大学では授業教室の感染拡大防止対策強化、学修支援システム「DUET」機能改善、シラバスシステムの機能改善、ラーニング・コモンズ内のグループ学習エリア増設、パソコン用充電器貸出し等を実現しました。

キャンパスライフに関するアンケート調査

- 実施方法** WEB調査(e-class)
- 調査対象** 学部2021~2019年度生
- 回答期間** 2021年11月1日(月)0:00~11月21日(日)23:59

調査年度の3月頃に、学生個人にe-classを通じて調査結果の一部を棒グラフやレーダーチャートを用いてフィードバックしています。この機能を活用して、同学年の学生と自分、あるいは過去の自分と今の自分を比較することができ、学びや成長をふりかえるきっかけを提供します。

「学びのふり返し」卒業時調査

- 調査対象** 本調査を卒業時調査に利用する学部所属の学部生
- 回答期間** 卒業論文提出時期~卒業式当日の範囲で学部毎に設定して実施

「同志社大学におけるアセスメント・ポリシーの策定に関する基本方針」を策定し、学士課程において卒業年度の学生調査の実施を必須とし、さらに卒業論文を提出しない学生については、学生調査の分析により、学生がディプロマ・ポリシー(DP)に掲げた資質・能力を獲得できたかどうかを把握し、教育成果の自己点検、評価に取り組むことが定められています。

そのため、学習支援・教育開発センターでは卒業年度の学生調査、「『学びのふり返し』卒業時調査」を作成し、2021年3月卒業生から調査を開始しました。

本調査は、上記のとおり学生がDPに掲げた資質・能力を獲得しているかを把握することに加え、既存の「キャンパスライフに関するアンケート調査」と経年分析できるような調査設計になっています。

「キャンパスライフに関するアンケート調査」の結果から

本学では、在学生の学びの状況や大学教育に対する受けとめ方の特徴を把握するために、「キャンパスライフに関するアンケート調査」を実施しています。

従来は、1年次生と3年次生を調査対象にしていたが、2020年度はコロナ禍ということもあり、一時的に調査対象を拡張し、2年次生にも調査しました。そして、2021年度以降は、2年次生も継続的に調査対象とすることが正式に決まりました。さらに、2020年度からは調査方法をWEB調査に一本化し、調査実施から集計作業までの時間短縮を図り、より迅速に学内で調査結果を共有できるようにしました。WEB調査への移行にあたって、回答率の低下が懸念されたため、従来、春休み期間中に実施していた調査を、試験期間中あるいは授業期間中に繰り上げることで、より多くの学生に調査実施を周知できるように、調査の枠組みを大きく見直しました。残念ながら回答率は振るいませんでしたが、試験期間中よりも授業期間中に調査を実施したほうが、わずかに回答率が高まることわかりました。直近2年間の実施概要は表1のとおりです。

表1 2020年度調査と2021年度調査の実施概要

	2020年度調査			2021年度調査		
	2020年度生 (1年次生)	2019年度生 (2年次生)	2018年度生 (3年次生)	2021年度生 (1年次生)	2020年度生 (2年次生)	2019年度生 (3年次生)
回答期間	2021年1月25日~2月24日			2021年11月1日~11月21日		
実施方法	WEB調査 学内LMS[e-class]のアンケート機能を利用			WEB調査 学内LMS[e-class]のアンケート機能を利用		
有効回答数	1,038人	260人	318人	1,145人	645人	422人
有効回答率	17.1%	4.3%	5.0%	18.3%	10.8%	6.9%

コロナ以前とコロナ禍を比べて、ラーニング・コモンズの利用や効果に変化はみられるのか?

コロナ禍が始まった2020年度は、キャンパスに通学していない学生も多く、キャンパス内の授業外学習施設の利用状況は大幅に落ち込みました。

図1は、本調査における1年次生の回答にもとづき、ラーニング・コモンズ(以下、LC)の利用率(LCを日常的に利用した学生とたまに利用した学生の合計割合)とLCの設備に対する満足度の推移を示したものです。今出川校地にLCが開設された2013年度から1年次生の約6割が利用し、満足していました。2016年度以降は、利用率も満足度も緩やかに上昇していましたが、新型コロナウイルスが拡大した2020年度には急落しました。2020年度の利用率はわずか25.4%で、満足度も4割を下回りました。

コロナ禍2年目の2021年度は、他大学同様、本学でも昨年度の経験を踏まえて、感染拡大予防を徹底しつつ、対面授業とネット配信授業を併用しながら授業をおこないました。2020年度調査と比べると、2021年度調査では週に数回以上通学する学生の割合が高まったこともあり、LCの利用率は4割を超え、満足度も6割まで回復しました。

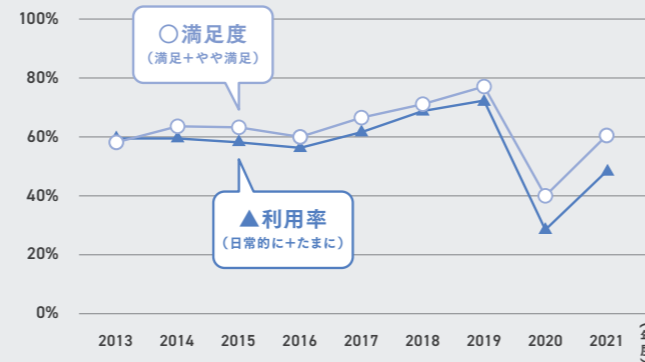


図1 1年次生のラーニング・コモンズの利用率と満足度の経年比較

縦軸:「効果的に学習する技能」の入学後の獲得実感
(「身についた」「やや身についた」と回答した学生の割合)

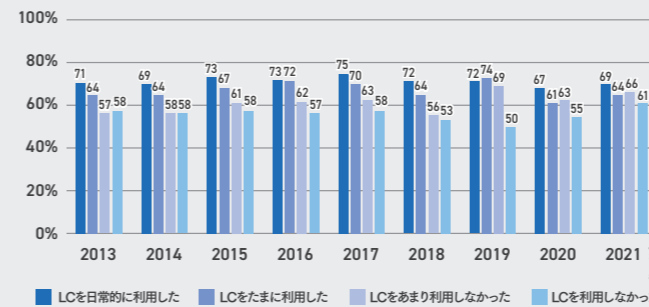


図2 各年度の1年次生における、ラーニング・コモンズの利用頻度と「効果的に学習する技能」の獲得実感

LCの利用は、本学の学生たちの学びにどのような効果をもたらしているのでしょうか。本学では、大学の学びが、整理された知識を一時的に与えられる学びから、自ら問題を発見し解決する主体的な学びへと大きく方向転換することを見据え、このような「新しい学びのかたち」をより一層浸透させ、その教育効果を更に高めるべく、「(1)アカデミックスキルを育成する空間」および「(2)学生同士が交流して相互に啓発する空間」というコンセプトのもと、LCを開設しました。このようなコンセプトにもとづき、本学ではLCを教室とは別の学びの広場として位置づけていますが、新型コロナウイルスの影響によって授業のオンライン化が大きく進展した状況下にあっても、学生たちがLCという授業外の学習施設で、人と出会い、学びの多様性を知り、学びの相互啓発をおこなうという機能を果たすことができたのでしょうか。本調査をつうじて得られた学生たちの自己成長実感の回答をもとに、検証していきます。

まず、(1)アカデミックスキルを育成する空間としてLCが機能しているのかを調べてみましょう。図2は、年度ごとに、LCの利用頻度によって、「効果的に学習する技能」に関する入学後の獲得実感がどのように異なるのかを示したものです。2018年度まではLC利用頻度が高い学生ほど、「効果的に学習する技能」の獲得実感も高い傾向にありました。ところが2020年度以降は、LC利用頻度による獲得実感の差が縮小しています。ネット配信授業の導入

縦軸:「自分の意見を筋道立てて主張できる力」の入学後の獲得実感
(「身についた」「やや身についた」と回答した学生の割合)

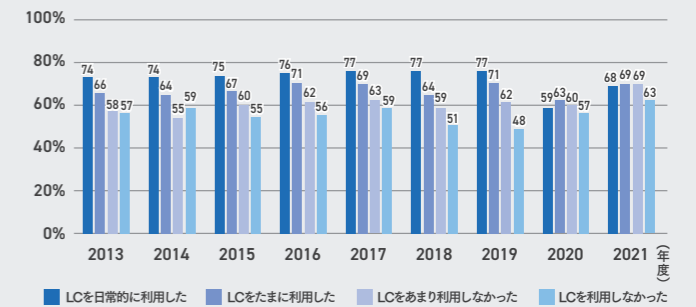


図3 各年度の1年次生における、ラーニング・コモンズの利用頻度と「自分の意見を筋道立てて主張できる力」の獲得実感

によって、時間をうまくやり繰りしたり、自分に適した学習方法を見つけたりした学生が少なくなかったのかもしれない。

次に、(2)学生同士が交流して相互に啓発する空間としてLCが機能しているのかを調べてみましょう。図3は、LC利用頻度と、「自分の意見を筋道立てて主張できる力」の入学後の獲得実感の関連を、年度ごとに示したものです。2019年度までは、概して、LC利用頻度が高い学生ほど、「自分の意見を筋道立てて主張できる力」の獲得実感も高くなっていました。しかし、2020年度以降は、LC利用頻度による獲得実感の差がほとんどみられなくなりました。コロナ禍においては、LCのなかでグループワークができるエリアに利用制限がかかっており、一人で勉強するタイプの自習を目的としてLCを利用する学生が多くなっています。逆に、LCを利用して、学生同士がコミュニケーションを繰り返す機会が減ってしまいました。「学びの交流と相互啓発」を目的とした利用がコロナ以前に比べると少なくなった結果、LC利用頻度と、学生自身が「自分の意見を筋道立てて主張できるようになった」という手応えや成長実感のあいだに関連がみられなくなったと考えられます。このことを別の角度からみれば、考えたことを話したり誰かの意見を聞いたり、仲間とリラックスしてしゃべることができる学習環境が、学生たちの成長を支えていたといえるかもしれません。

ラーニング・commons活動状況ーコロナ禍2年目の活動報告ー

新型コロナウイルスの影響はまだまだ続いています、ラーニング・commons(LC)では、昨年度、試行錯誤しながらはじめたオンライン学習相談や、セミナー・各種イベント等のオンライン開催が利用者にも定着し、安定した運営ができました。

施設内は、2020年11月から一部エリアに限定して設けていたグループ学習可能エリアを、利用実態に応じて拡張しました。短縮していた利用時間も通常時に戻し、感染予防対策を行いながらも少しずつ元の活気を取り戻しています。

また、コロナ禍にあっても、「日本語ライティングサポートWEEK」などの新たな取り組みも行いました。

ポストコロナへの発展を見据え、引き続き学生に必要な学習の場と機会を提供し続けられるように努めています。

開催報告

アカデミックスキルセミナー

春学期はオンライン授業の受け方や教員への連絡の取り方、レポートの書き方、文献の調べ方などをテーマにセミナーを実施(全33回)しました。秋学期はより具体的なレポートの書き方、聞き取り調査の方法に加え、卒業論文や卒業研究に関連したセミナーを実施(全19回)し、一部のセミナーは教室で学生が対面でも参加できるようハイブリットで行いました。春学期に実施したセミナーは、ラーニング・commons公式YouTubeチャンネル(後述)でオンデマンド配信も行っています(2023年3月まで配信予定)。

春学期	12:30~13:00(30分) または 12:30~14:00(90分)	秋学期	12:30~13:00(各回30分)
実施時間	Microsoft Teamsにてリアルタイム配信(後日オンデマンド配信)	実施時間	Microsoft Teamsにてリアルタイム配信(一部対面実施)

日本語ライティングサポートWEEK

大学院に在籍している外国人留学生を対象に、日本語のレポートや論文の添削、書き方のアドバイスを行う期間限定イベントを開催しました。チラシによる案内や研究室仲間の紹介がきっかけとなり、中国(3名)、韓国(2名)、台湾(1名)の留学生(法学研究科、総合政策科学研究科、グローバル・スタディーズ研究科他所属)からレポート課題、修士論文、投稿論文等に関する相談が寄せられ、うち4名の相談者が2回以上利用しました。

対象	全研究科の外国人留学生	期間	11/22(月)~12/10(金)
開催方法	原則対面相談(日本語で対応) ※両校地オンラインでも受付。海外からも相談可。		

	良心館LC	ラーネット記念図書館LC
曜日	月 — 13:10~14:40 (3講時) 火・木 — 14:55~16:25 (4講時)	水・金 — 14:55~16:25 (4講時)
場所	良心館LCアカデミックサポートエリア	ラーネット記念図書館LC プレゼンテーションコート



YouTube、Instagramをはじめました!

LC内の各エリアや学習相談利用方法の紹介動画や、スタッフからのメッセージをYouTubeチャンネルにて公開しています。ぜひLCホームページ内のバナーをクリックしてアクセスしてみてください。Instagramでは、主にLAが考えた記事を、映える画像とともに投稿し、LCの活動をアピールしています。利用者にとって有用な情報ができる限り見逃されないように、これからも各ツールの良さをいかした広報活動を続けていきます。



学習相談利用者数

2021年度は、良心館・ラーネット記念図書館の両LC(対面、予約不要)と、おうち De LC ポータル(オンライン、予約優先制)の3つの窓口において学習相談を実施しました。

おうち De LC ポータルでの学習相談の利用者数は延べ31人で、2020年度の3割程度となりました。おうち De LC ポータルは、2020年度のリモート勉強室とおうち De LC 学習相談を一元化したもので、より利用者にわかりやすい運用を目指しました。

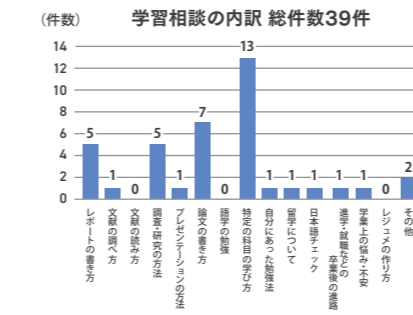
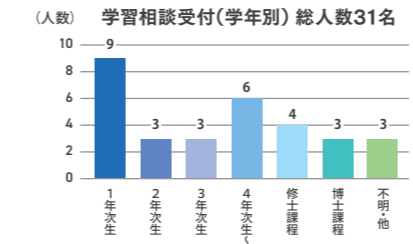
対面での学習相談は、良心館LCでの延べ相談者数は603人で、最も利用者が多かった学年は1年生(305人)、最も相談が多かった内容は「レポートの書き方」(238件)でした。レポートの書き方の相談には、出典の記載の仕方や参考文献リストの書き方などの引用の方法に関する質問、レポートの構成に関する質問などが寄せられました。

ラーネット記念図書館LCの延べ相談者数は1229人で、利用者の約6割が1年生(751人)でした。相談内容の大多数は「特定の科目の学び方」(1033件)となりました。

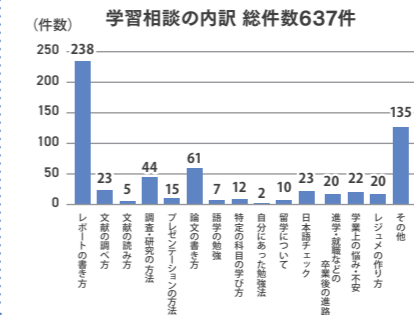
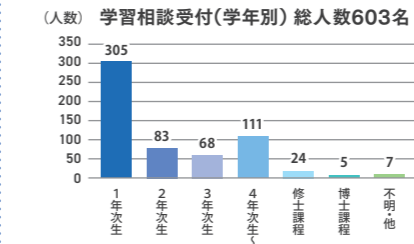
良心館LCの利用者数はコロナ禍以前より減少していますが、ラーネット記念図書館LCの利用者数は2019年度比で約1.8倍に増加しました(2019年度の良心館LCの利用者は929人、ラーネット記念図書館LCは690人でした)。

2021年度は、1年を通して学習相談を対面で実施することができたため、メインの学習相談は対面相談になりましたが、オンライン相談は入国できない留学生や、様々な事情で大学に来られない学生に対する窓口として機能することができました。

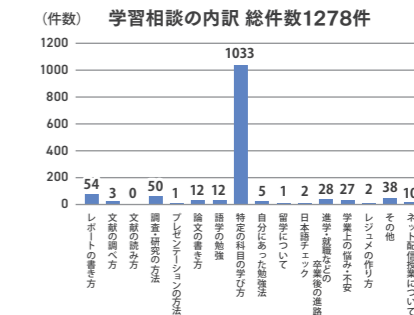
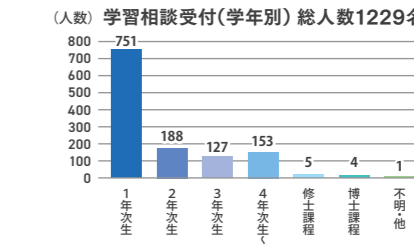
おうち De LC ポータル
(2021年4月1日~2022年1月31日累積、8月7日~9月20日、12月29日~1月5日休止)



良心館ラーニング・commons
(2021年4月1日~2022年1月31日累積、8月7日~9月6日、12月29日~1月5日休止)



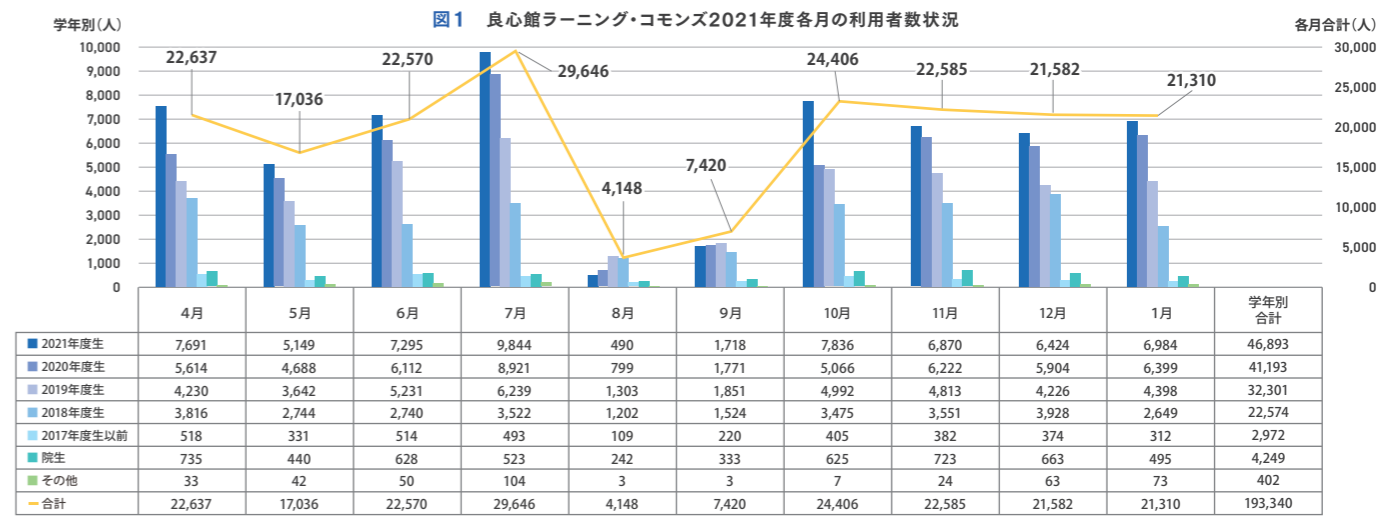
ラーネット記念図書館ラーニング・commons
(2021年4月1日~2022年1月31日累積、8月7日~9月6日、12月29日~1月5日休止)



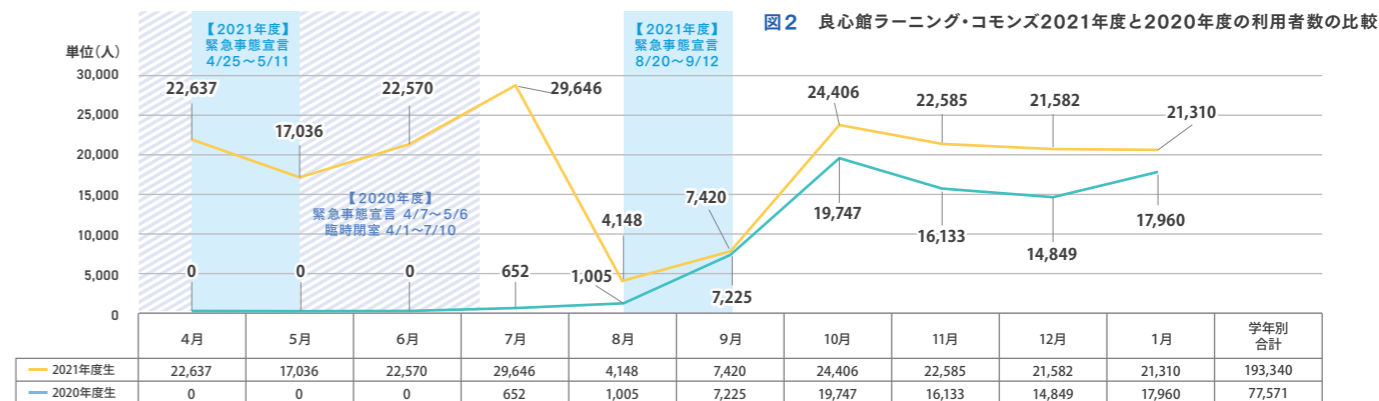
※ラーネット記念図書館LCの相談内容の内訳の「ネット配信授業について」の項目は、良心館LC、おうち De LC ポータルでは設けていません。

施設利用者数について

良心館LC全体の2021年度各月の利用者数状況をまとめたものが下のグラフ(図1)です。2020年度に引き続き2021年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から座席数や利用目的を制限した運営を行っていますが、2021年度は臨時閉室や開室時間短縮が実施されなかったこともあり、入学年度問わず学生が年間を通してLCを利用していることがわかります。また、コロナ禍が始まったばかりの時期に入学した2020年度生も他の年度生と遜色ない利用者数であることから、コロナ禍であってもLCの認知度については影響がなく、かつ学生にとってニーズのある施設であることがうかがわれます。



そして、2021年度と2020年度の利用者数を比較したものが下のグラフ(図2)です。2021年度も京都府において二度にわたって緊急事態宣言が発令されましたが、順調に利用者が増えてきている様子うかがわれ、学期授業終了前後~定期試験の期間には利用者数が急増する傾向は例年のLC利用動向と同様の傾向を示す結果となり、いまだコロナ禍ではあるものの、新型コロナウイルスと共存する大学生生活を送れる日々近づきつつあるのではないかと可能性を感じました。



LA 研修

LA勤務前研修

(対面)

京田辺

日時 3/25(木) 3講時~4講時

場所 情報メディア館102

今出川

日時 3/26(金) 3講時~4講時

場所 良心館407

(オンライン) (Microsoft Teamsにて実施)

日時 3/29(月) 12:30~14:30

秋学期新規採用LA勤務前研修

日時 9/15(水) 13:00~16:30

場所 今出川 良心館318
またはオンライン(Microsoft Teams)

LAフォローアップ研修

日時 9/16(木) 13:00~16:30

場所 今出川 良心館318、京田辺 夢告館101
またはオンライン(Microsoft Teams)

主なLA登壇イベント

コモズランチ会

学生が、ランチタイムを利用して若手研究者でもあるLAと気軽に交流する機会を提供することを目的に、2020年度からはじまり、4回目を迎えました。トークテーマは毎回LAが企画しています。

日時 12/14(火) 12:20~13:00

場所 良心館202およびMicrosoft Teamsでの同時中継

対象 本学学生、大学院生、教職員

第4回テーマ レポートに「思う」を使わないのはなぜか



ますぴた! オンライン (Microsoft Teamsにて開催)

対象 本学学生

アクティブ・ラーニング式数学自主勉強会として、「気付かなかった数学の面白さ」を発掘することを目的に、計12回開催されました。

主なテーマ

「行列ってなに?」「行列式の役割って何なん?」「図形からみた・代数からみた逆行列」「旅する数学~写像を追っていく~」「高校数学から学ぶ「数学の応用」



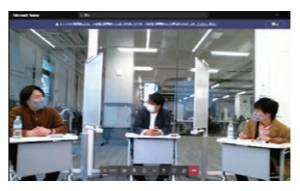
アイデアの交流会オンライン (Microsoft Teamsにて開催)

対象 本学学生、教職員(どなたでも)

アイデアの交流から生まれる出会いや学びを楽しむ目的で、昨年から試行的にはじめられた企画でしたが、1年間定期的に、計15回開催することができました。文理問わず気軽に集まることができ、学習・研究にアウトプットが大切なことを改めて実感できたかもしれません。

主なテーマ・アイデア

「学内猫自動判別装置」「人口知能による自律性支援」「運動部は必要か」「自動車間におけるスタンプコミュニケーション」「国内外におけるe-sportsの発展」「キャンパス留学 in Japan~留学生との異文化交流~」「学生の特権、考えてみる?」「アイデアとは何か」



▲ 1周年記念、第10回の様子

キャンパス留学 in Japan

コロナ禍で日本に来ることができない留学生や、海外に行けない日本人学生などがオンライン上でつながることで、ランゲージエクスチェンジや異文化の価値観を知りあう交流を行う目的で実施しました。

第1回 7/7(水) 12:15~13:00

第2回 7/15(木) 12:15~13:00

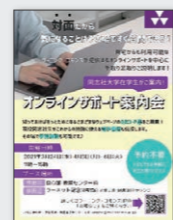
その他

オンラインサポート案内会

LCで提供する各種オンラインサービスや、図書館が提供する電子書籍について、普段HPやTwitterを見ない学生や、LCを訪れたことがない学生にも知ってもらえるよう、対面で丁寧に案内する機会を設けました。キャンパス内の人通りが多い場所で、時に声かけを行いながら、QRコードからサービスへのアクセスを実際に試してもらうなど、積極的な広報活動ができました。

日時 3/24(水)、4/5(月)、4/6(火) 11:00~15:00

場所 今出川 良心館 教務センター前
京田辺 ラーネッド記念図書館前



LAに相談してみようボード

LAの発案で、学生が自由に学びに関する質問を書く、後日LAが回答を記入してくれる交流掲示板「LAに相談してみようボード」を両校地LCに設置しました。たくさんの書き込みがあり、学生とLAの気軽な交流、LCの活動の周知に役立っています。

ラーネッド記念図書館LC前に設置したボード ▶



各種発行物

コモズプレス Vol.14・15

自主学习場所の案内リーフレット



学部・研究科・センター等FD活動報告



それぞれ取り組んでいるFD活動の一部を紹介します。

文化情報学部

文化情報学部は、2021年度のFD活動として二度のFDフォーラムを実施し、専任教員が一堂に会して意見交換を行った。一度目のFDフォーラムは8月にオンラインで開催した。昨今、文化情報学の方法論的支柱ともいえる情報学・データサイエンスの目覚ましい発展や、新型コロナウイルス感染症の急速な広まり等に伴う社会の変容や文化現象の多様化が見られる。そうした状況を踏まえつつ、本学部の研究機関型教育機関としてのポジショニングに関する認識を改めて共有・検証しながら、学生と教員とがともに文化情報学研究に取り組むことにより得られる教育効果について白熱した議論を交わした。また、二度目のFDフォーラムは3月にオンラインで開催し、今後のカリキュラム改訂の方向性について議論した。学生の潜在的な動機に適切に働きかけることにより、学習に対する主体性を喚起するための制度について活発な議論を行った。これらFD活動の内容を反映させることにより学部教育の一層の充実化を図る。

心理学部

心理学部では伝統の少人数制教育を継承しながら、心理学に関する最先端の専門知識と技能の修得を目指した教養教育を展開している。そのために、1年次のファーストイヤーセミナーから4年次の演習(ゼミ科目)まで、全学年で少人数科目を設置し、きめ細やかな指導を実現している。また、「神経・行動」「臨床・社会」「発達・教育」と大きく3つの分野を示すことで、学生ひとりひとりの興味・関心がどの分野に向いているのかを確認できるよう、カリキュラムの充実を図っている。こうした教育実践を支えるために、心理学部では演習科目を中心にコーディネーターの教員を設置することで、教員相互のコミュニケーションと連携を図っている。今年度のFD講演会では、公認心理師に関わる「心理実習の現状と課題」というテーマで、臨床の教員3名による話題提供がなされた。また、毎回の教授会において学生の動向を常に把握し、昨年度から対応の続く感染症拡大防止の状況について情報共有の機会を設けることで、すべての教員がFD活動に関心を持ち、教育環境の向上に努めている。

司法研究科

司法研究科で実施している様々なFD活動のなかから、特色ある取組みのいくつかを紹介する。学生への授業アンケートを、毎学期、開講5~6週後と終講1週前に実施している。教員は寄せられた意見から改善または回答を要する事項を抽出してFD委員会に回答を提出し、同委員会において、その提出状況、対応状況を点検している。毎学期の中頃に授業傍聴期間を2週間設け、教員相互による授業傍聴を実施している。FD委員会において、傍聴した教員から授業の内容及び教授方法を評価した記録の提出を受け、当該科目の到達目標の観点から授業が適切に実施されているかを評価するための資料としている。教育の一層の充実を目的として京都大学法科大学院との間で単位互換科目を設け学生の相互受講を認めているが、教員による対象授業の相互参観、受講学生へのアンケート調査及び聞き取り調査のほか、連携FD分科会を毎年度1回以上開催して意見交換し、教育内容・方法の改善に役立てている。

教育方法・教材開発費制度について

本学における授業改善をさらに促進するために、専任教員を対象として、新たな教育方法および教材開発に必要な費用全般を補助する「教育方法・教材開発費制度」を設置し、毎年度秋学期に次年度の開発費の申請を受け付けています。2022年度はこの制度を利用して以下の取組みが行われます。

開発テーマ	申請者
多様性に対する理解を促進する教育方法・教材の開発 「多様性×Forum Theatre ×マンガ~実践について考えよう」	Bettina Gildenhard (グローバル・コミュニケーション学部)
卒業生企業家との産学連携をつじた アントレプレナーシップ(起業)教育のための教材開発	関 智宏 山内 雄気 太田原 準 (商学部)

※開発区分にはA区分(50万円以下の補助)とB区分(200万円以下の補助)があり、今回はA区分のみの申請がありました。

制度の利用を希望される方は、<https://clf.doshisha.ac.jp/support/development/materials.html> 詳細をご覧ください。受付期間に申請をお願いします。

本制度を利用して開発された教材の一部は、<https://clf.doshisha.ac.jp/opencourse/opencourse.html> 本学オープンコースウェア上で公開しています。

教育開発調査活動費制度について

本学の教育の質的向上のための積極的な調査活動を支援するために、専任教職員を対象として、教育開発に関する各種学外企画の参加に必要な旅費・参加費等の費用補助を行う制度を設けています。補助対象となる催しはメーリングリスト及び、以下のページで案内しています。

メーリングリストへの登録を希望される場合は [学習支援・教育開発センター事務局までご連絡ください。](mailto:learning@clf.doshisha.ac.jp)

研究会・研修会のご案内 <https://clf.doshisha.ac.jp/research/research.html>

本制度の詳細を掲載しています。 [教育開発調査活動費制度 https://clf.doshisha.ac.jp/support/action.html](https://clf.doshisha.ac.jp/support/action.html)